

■アフター5 スター賞 (SⅢ) アラカルト (過去全 25 回の分析)

※第 1 回 (平成 6 年) から第 8 回 (平成 13 年) までは大井ダ 1,800m で実施

※第 9 回 (平成 14 年) は大井ダ 1,790m で実施

※第 10 回 (平成 15 年) は大井ダ 1,190m で実施

※第 14 回 (平成 19 年) は馬インフルエンザの影響で施行日を 9 月 5 日から 11 月 30 日に延期

※記録は令和元年 8 月 14 日時点

■3 着内率は 1 番人気馬より 2 番人気馬の方が高い

単勝 1 番人気馬は 9 勝、2 着 4 回、3 着 0 回で、3 着内率が 52.0%、単勝 2 番人気馬は 4 勝、2 着 7 回、3 着 5 回で、3 着内率が 64.0%、単勝 3 番人気馬は 4 勝、2 着 2 回、3 着 7 回で、3 着内率が 52.0%となっている。単勝 2 番人気馬の健闘が目立っているレースだ。

■上位人気馬が 1~3 着を占めた例は 3 回

過去 25 回のうち 17 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は 10 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 3 回ある。

■優勝馬の年齢は 3 歳から 9 歳まで多岐に渡る

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 4 勝、4 歳が 3 勝、5 歳が 7 勝、6 歳が 3 勝、7 歳が 3 勝、8 歳が 4 勝、9 歳が 1 勝となっている。幅広い年齢層から優勝馬が出ているレースと言えるだろう。

■ 優勝馬の過半数は大井所属

所属別の勝利数を見ると、浦和が 2 勝、船橋が 7 勝、大井が 14 勝、川崎が 2 勝となっている。6 割弱を大井所属馬が占めている計算だ。

■ 牝馬は 1 勝、外国産馬は 2 勝

牝馬の優勝例は第 20 回（平成 25 年）のハードデイズナイトのみである。また、外国産馬は第 12 回（平成 17 年）のロッキーアピール、第 16 回（平成 21 年）のケイアイジンジンと、これまでに 2 回ある。

■ ハタノアドニスとキタサンミカヅキが“連覇”を達成

複数回の優勝例がある馬は、第 10 回（平成 15 年）・第 11 回（平成 16 年）のハタノアドニス、第 24 回（平成 29 年）・第 25 回（平成 30 年）のキタサンミカヅキと、現在のところ 2 頭いる。なお、いずれも 2 年連続の優勝だ。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「5」

騎手別の勝利数を見ると、5 勝の内田博幸騎手が単独トップ。2 勝の石崎駿騎手、坂井英光騎手、的場文男騎手が 2 位タイとなっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録は「3」

調教師別の勝利数を見ると、3 勝の川島正行調教師、高橋三郎調教師、福永二三雄調教師がトップタイ。小久保智調教師と佐藤賢二調教師が 2 勝で 4 位タイと続いている。

■ 優勝馬の大半は馬番が 1～8 番

枠番別の勝利数を見ると、3 枠（6 勝）が単独トップ。4 枠と 5 枠（各 4 勝）が 2 位タイとなっている。また、馬番別の勝利数を見ると、6 番（5 勝）が単独トップ。2 番と 8 番（各 3 勝）が 2 位タイである。なお、10 番、11 番、14 番、15 番は未だ優勝例がなく、9 番、12 番、13 番、16 番もそれぞれ 1 勝どまりだ。